

石川県立大学 第3回 FDセミナー

大学入試改革の動向と課題 — 学力の3要素にどう向き合うか —

対象
教職員全員

[日時] ▶▶▶ 9月19日(水) 14:40~16:10

[会場] ▶▶▶ 第2中講義室 (K117)

[講師] ▶▶▶ 大塚 雄作 先生

京都大学名誉教授・大学入試センター名誉教授
前大学入試センター試験・研究統括官(副所長)



2020年度から大学入試が変わる。これは、2014年末に公表された中央教育審議会答申に基づく「高大接続改革」の一環である。そこでは、入試改革のみならず、高校教育、大学入試、大学教育の一体的改革が強調されている。その一体的改革の背景にあるのが、「学力の3要素」と呼ばれているものであり、学校教育法第30条に記されている、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習する姿勢(主体性・協働性・多様性)」である。高大接続では、この学力の3要素を一貫して育成していくことが求められ、大学入試においても、それらをバランスよく評価することが期待されている。それを実現するための入試改革として、共通試験は、大学入試センター試験から大学入学共通テストへと移行し、記述式問題や英語の4技能をカバーする資格・検定試験の活用などが導入されることになる。また、個別試験でも、選抜に関わる基本的なルール改正を通して、学力の3要素に関わる評価が求められている。ここでは、それらの改定の概要を共有すると共に、実施に向けて残されている課題について紹介することを通して、「高大接続改革」という大きな流れにどう立ち向かっていくべきかについて考えることにしたい。

問合せ

関根(内線2201)

sekine@ishikawa-nu.ac.jp